

船形山のブナを守る会のみなさまに協力していただき、 石巻のみなさんと船形山に登りました

秋田駒ヶ岳、月山と2回にわたって石巻のみなさんと一緒に登山を行ってきましたが、最後となる船形山登山を、会員の相澤さんからご紹介いただいた「船形山のブナを守る会」のみなさまからお力添えをいただき、無事に終えることができました。被災地のNPOなどと何度も連絡を取っていただいた餘永（光）さんをはじめ、ご協力いただいたみなさんに深く感謝申し上げます。

山行報告

★船形山(8月25日～26日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)
石巻から(大人2名、子ども3名)
船形山のブナを守る会から12名

預ける。その後、Gさんから教えていただいた沖縄エイサーパレードの出発地に行ってみる。沖縄の人たちが演奏していたが、Gさんが見えなかったため帰ろうとした時、Gさん親子が現れ、再会を喜び合った。

☆8月25日

新幹線やまびこは、とても空いていた。仙台駅で仙石線に乗り換え、松島海岸駅で代行バスに乗り換え、矢本駅で再び電車に乗って、石巻駅に到着する。車窓から風光明媚な松島を楽しむが、その後は津波や地震による被害で、倒れたままの電柱や被害を受けた駅や民家を見ながら行く。復興には、まだまだ時間がかかるようだ。

石巻駅から、泊まるホテルに行き、荷物を



石巻の商店街でエイサー踊りが披露される

その後、予約時間を過ぎていたプロショップまるかに急ぎ、刺身定食やラーメンを食べる。Gさんお勧めのタコは、水ダコだということだったが、やわらかくておいしかった。このあと、エイサーのパレードが始まっているのではないかと思い、アイトピア方面に行くと、にぎやかなパレードが始まっていた。よく見ると、パ

リードの一番後をGさん親子が歩いている。Rちゃんのお父さんにも会うことができ、良かった。

私たちは、その後、日和山公園に登って、大きな被害を受けた門脇、南浜町方面を見してみる。石巻市立病院の建物は残っているが、周囲は被災した時と変わらない状態のようだ。被害を受けた車は、海岸近くに堆く積まれたままだ。川口町にある瓦礫は、1年前に来た時とほとんど変わらない状態で、残っている。それでも、重機が入って瓦礫の分別などを行っていたので、これから撤去が進むのだろうか。日和山から実際に門脇地区に下りて歩いてみる。津波によって全壊となったり流されたところは、空き地となってヒマワリなどが元気に咲いている。倒壊したままの家もある。ここに再び人が戻ってきて、集落ができていくのだろうか？

日和山公園まで再び登り、茶店でかき氷を食べる。その後、ぴーまんさんの提案で、明日、石巻や船形山のブナを守る会の方を歓迎するため、AKB48の「会いたかった」を何人かで練習して、宿に戻った。

☆8月26日

ホテルから石巻駅に行くと、すぐにKさん親子が現れた。山では元気だったSちゃんは、恥ずかしそうにお母さんの陰に隠れている。Gさん親子も集合し、6時に石巻駅をバスで出発する。

大和町にある「まほろばホール」で船形山のブナを守る会のみなさんと合流する。代表のKOさんや世話役のKSさん、そして都合で来られないと言っていたAOさんにもお会いし、総勢33人となって、KOさんの車で先導していただいて、大滝キャンプ場を目指す。

旗坂キャンプ場あとへの道と分かると、未舗装の凸凹道となり、バスが傷つかないか心配になる。何度かこする音がしてヒヤリとしたものの、プロ運転手の腕のおかげで、無事に大滝

キャンプ場に到着した。

キャンプ場で、全員自己紹介をし、ぴーまんさんの音頭で、ちょっとぎこちなかったけど、「会いたかった」も披露された。今回は、宮城テレビの取材が入るが、早速、インタビューが始まった。

水温7度くらいの冷たくておいしい人命水を水筒に満たして、1班から出発する。

歩きはじめると、すぐに暑くなってくる。ただ、天気は良くてこれから登る船形山の稜線が見えていた。そして次第に登りがきつくなる。そして、まずは眺望所に到着。木の標識には、熊が囓ったあとがたくさん付いている。船形山のブナを守る会のKさんから、熊はアルコールやガソリンを使った揮発性のペンキなどの匂いが好きらしいと教わる。このあとも、ペンキで書かれた木の標識に囓り傷があったが、他の樹木には噛んだ跡などはなかった。



ブナの幹の径を図ってみる

次は鏡ヶ池への分岐で休憩する。ここからさらに急になるとのことで、余裕時間もなくなってきたので、遅れている人には、Yさんと船形山のブナを守る会の方から付き添っていただき、石巻の人たちや他の元気メンバーは、少しペースをあげて山頂を目指すことにする。そのことを後の人たちに伝えてもらうよう、お願いして先に進んだが、伝わっていなかったようで、Aさんが駆け上ってきて、先頭に伝えてくださった。

ロープの張られた急坂を登り、さらにKさんが先に行ってロープを張っておいてくださ

たところもある。急登をがんばり、傾斜が緩くなってくると展望も利くようになってきた。後には前船形山が見える。その下には鏡ヶ池も見えていた。しかし、上空はどんよりとして周囲の山は雲に隠れている。



ロープに掴まって急登をがんばる子どもたち

ようやく稜線の御来光岩に到着した。雲が厚くたれ込めているため、周囲の山は見えなかったが、これから登る山頂は指呼の間にある。クマザサなどをかき分けて進むと、すぐに船形山の山頂に到着した。石巻のみなさんにぜひすばらしい展望を見てもらいたいと思い続けてきたのだが、残念ながら遠望は利かず、周囲の山は見えなかった。しかも、少しすると雨が降りだしてきた。

降り始めた雨は次第に強くなり、本降りとなった。避難小屋の屋根の下に入れた人はよいが、入れない人は困っていたが、避難小屋には裏側から入ると教えていただき、避難することができた。避難小屋にはいると、ドカーンと雷の音もしてきた。小屋の中では、船形山のブナを守る会のK〇さんたちが、ラーメンを作ってくださる。その間に、屋根下にいた人たちも、ひどいスコールになったということで、小屋の中に避難してきた。

激しい雨も小降りになり、すぐ近くに青空も見えるようになってきた。外に出て、集合写真を撮って下ることにする。この頃は、まだ降っていたが、かなり小降りになり、視界も出てきた。しかし、登山道は登りと全く様子が変わって、そこら中に深い水たまりができ、後の方が

らキャーキャーという大声がひっきりなしに聞こえる。声の主はSちゃんだと思ったら、お母さんのKUさんだった。



船形山の山頂にて

御来光岩から下も沢のようになって、水がたくさん流れている。小3のSちゃんは、水の中に入るのも気持ちがよいといって、運動靴ごと、水の中に足を入れている。お母さんが、キャーキャー言っていると、Sちゃんは「うるさいから静かにして〜」と言っている。すべりやすい坂では、手を引いて、お母さんをサポートしている。しっかり歩いているRちゃんと共に、Sちゃんも将来が楽しみだね。

雨もすっかり上がり、青空が広がって、眺望所に到着。途中でMさんが7mほど滑落し、船形山のびなの会のみなさまが助けてくれたらしい。船形山のブナを守る会のみなさまに感謝です。

予定よりかなり遅れているが、大滝キャンプ場が近づいてきた。山頂をあきらめてNさんと一緒に下ってくださったYさんや船形山のブナを守る会のみなさまと無事合流した。

時間がかかり遅れているため、簡単に挨拶をして解散とした。事前準備から当日の安全確保まで、さまざまな支援をしてくださった船形山のブナを守る会のみなさまに深く感謝申し上げます。また、登頂をあきらめて、みんなのために協力してくださったり、子どもたちの安全確保やサポートをしてくださった会員のみなさま、本当にありがとうございました。

石巻から参加してくださったみなさまとは、

これをご縁にまた機会を見つけて山などに一緒にしたいですね。ご協力、ありがとうございます。

最後に、石巻の駅で帰りの電車を待っている時、秋田駒に参加したKSさんにもお会いすることができました。全ての被災地のみなさまの一日も早い復興を願っています。 記：網干

《参加者の感想》

石巻の町で 復興の兆しを見た
石巻の夕暮れ 行きずりの人に親切にされ
ぶなを守る会のみなさんのご好意を忘れない
東北の人たちは、どうして？なんで？そんなに
優しいのだろう
阿多多羅の山に続く ほんとうの空を見た
初秋の空に遊ぶ うろこ雲、すじ雲、ちぎれ雲
スコールの後に現れた 矢絣模様の雲を忘れない
東北の空は、どうして？なんで？そんなに美しいのだろう
空行く雲は時を待たず 変幻自在
東北の人のぬくもりはジンワリといつまでも
また いつかどこかで会いたいですね その日まで
君だけは、僕だけを 忘れないでいてください
♪会いたかった 会いたかった 会えて良かった 君に～！♪ 記：ぴーまんさん

【石巻のみなさんからの感想】

今回の船がた山も楽しかったです。ちょう上につくと、雨がふり、家（山小屋のこと）にいてやむまでまちました。

やんだ後、すぐに下までおりました。

くつに水が入るとままが、てい音こう音をだしながらわらっていました。

一番楽しんでいたのは、ママでした。

記：S.Kさん

先月、秋田駒ヶ岳を経験し秋駒のイメージに船形山を重ね合わせ近場ということもあり勝

手に緩やかな山であるとすっかりなめてかかっていた私。

しかし、いざ登ってみると、登り口から本格的な登山道。

暑さも手伝って変な汗が背中をつたう×10。

それでも、平静を装い必死に登り、途中樹齢300年、太さ3、5Mもあるブナの木を見上げた時はちょっとトトロになった気分です。

今日は、頂上でも絶景を拝めるぞ・・・なんて思いながら少々ばて気味の娘を励まし励まし頂上をめざし。

しかし、ついで間もなく突然のスコールで、またもや眺望を逃しましたが、だからこそ今度こそ絶景を！と山に向かいたくなるのも山の魅力なのかなと思っています。

船形山は、私たち親子に苦しさを乗り越えた後の喜びや満足感を教えてくれました。

そして、アルプの皆様、船形山のブナを守る会の皆様と登山できたことを嬉しく思います。

アルプの皆様はみんな不思議な力を持っています。私たち親子、K家親子を山に吸い込んでしまったのですから・・・

皆様とお会いできたことに、深く深く感謝いたします。 記：H.Gさん

「山のぼり」(大街道小学校五年R.Gさんが夏休みの宿題に書いた詩です)

久しぶりにアルプの方たちに会った。

ピーマンさんが「会いたかった」の歌で歓迎してくれた。

とてもおもしろかった。

とてもうれしかった。

だから、今日も山のぼりをがんばろうと思った。

今日はきつい山だ。

石ころもあって登りにくい。

でも、三百年も生きている太いブナの木が「がんばれ」と見守ってくれていた。

途中、「もう帰ろう！」とお母さんに言ったら「何言ってるの、もう少し」とおこられた。くやしくて、またがんばった。

頂上までいったらいろいろな山が見えた。まるで、「天空の城ラピュタ」の朝のようにきりがかかっているようにきれいだった。「やったー」と思った。

そのとたん、積乱雲の大歓迎。下山は、土砂降りのしわざで沢下りのようだった。くつの中で泥水が「ぐにゃ！」「ぐにゅ！」「ぐちゅ！」と大合唱。みんなに聞こえそうだった。

★槍ヶ岳（リーダー養成コース）（9月15日～17日）

参加者 会員(健常者4名)

☆9月15日

今回は、リーダー養成ということもあり、参加メンバーを見て、小屋泊まりの予定を変更してテント泊で行くことにした。

天気予報は、山行日が近づくとつれ、微妙に変わってくる。2日目がハイライトのため、この日に晴れて欲しいという気持ちを胸に出発した。

ムーンライト信州で穂高駅に着くと、空は晴れているようで、ホッとす。中房温泉で朝食を取り、出発する。何度も登った合戦尾根、今回も合戦小屋でスイカを販売していたので、一切れのスイカを4人で分割してスイカを食べる。日差しが強く暑かったが、合戦小屋に着く頃には、完全に雲の中に入っていた。

燕山荘に着くと、野口五郎岳が雲の間から見えるが槍ヶ岳は見えなかった。とにかく稜線歩きは、雷を心配する必要がある。しかし、まだしばらくは大丈夫そうだ。

石の上でスローモーションのように転びお母さんが大笑い。下山はずっと笑っていた。

この夏の登山は私に「命の強さ」「満足感」「達成感」を教えてくれた。山ってすごい。山って生きている。山ってこわい。でも、山ってやさしい。そんな私になれたらうれしいな。

記：R.Gさん

コースタイム

8/26 大滝キャンプ場(8:55) … 船形山(11:25-12:30) … 大滝キャンプ場(14:50)

燕山荘から表銀座の縦走路を歩く。気持ちの良い尾根が続く。槍ヶ岳が見えないのは残念だが、蛙岩を越え、大下りの頭に着く。今日の目的地、大天井岳は見えないが、これから歩く縦走路はある程度見えていた。



燕岳(左)を背に表銀座コースを歩く

大下りを下りきった頃から雨が降り始めたので、カッパを着る。だが、雨は長く続かず、すぐに止んでくれた。為右衛門吊岩は、どれが吊岩なのか、はっきり分からないまま通過し、気持ちの良い縦走路を歩いていくと、切通岩に到着した。鎖の付いた岩場を慎重に下ると、小林喜作さんのレリーフがあった。ここからが喜作新道なのだろう。



ヒメコゴメグサ(花の中に女性の顔が)

連続するはしごを登り、大天井ヒュッテへの道と分かれ、大天荘へのトラバースルートに入る。じわりじわりと高度を上げていくと大天荘に到着した。疲れ切った体だが、みんなでテントを張り、名シェフのSさんが用意してくれた牛タンやウイナーを小型フライパンで焼き、最高においしい料理をいただいた。Kさんも卵を2個ずつ持ってきてくれて、他にも漬け物など重いものをたくさん振る舞ってくださった。

☆9月16日

3時半に起床して外を見ると満天の星空だ。天の川もよく見える。早々に朝食を取り、4時40分にヘッドランプを付けて出発する。

大天井ヒュッテへのトラバース道は、ところどころ岩場があり、視覚障害者の人をサポートしていると、かなり厳しそうに感じる。トラバース中に日が昇り、北穂高岳や前穂高岳が朝日に色づいて見えた。大天井ヒュッテに着くと、剣岳や針木岳も見えるようになった。

貧乏沢へ下る箇所を通り過ぎ、尾根に上がったところがビックリ平だった。野口五郎岳や水晶岳、鷲羽岳、立山、剣岳方面が開け、ビックリするほどうれしい場所だった。ここで、Sさんがコーヒーを振る舞ってくださった。最高の景色を見ながらのコーヒーは、最高だった。

ビックリ平を過ぎ、喜作新道が南に大きく曲がるころになると、槍ヶ岳が北鎌尾根を従えてそびえ立つ姿がすばらしく、感動の声が上がる。ここからは、槍ヶ岳と北鎌尾根を常に見な

がらの縦走になる。槍ヶ岳の展望を恣に歩ける尾根は、最高にすばらしく、さすがは表銀座だなと感心する。



槍ヶ岳と北鎌尾根

赤岩岳は山頂に登らず、トラバースして通過する。夏はトラバースできるが、冬は雪崩の危険があるため、忠実に尾根を歩かないといけないうこともあり、冬の表銀座は中級コースといわれている。



穂高連峰とヒュッテ西岳

赤岩岳を過ぎるとヒュッテ西岳の向こうに穂高連峰がよく見えるようになる。テント場も、すばらしい展望の中にあり、とても良い場所だ。私は、20歳の頃、中房温泉から1日でここまで来たが、もうそんな体力は残っていないことを痛感する。

西岳からの下りは、梯子や鎖場があり、慎重に下る。いくつかピークを越えたところに水俣乗越がある。槍沢へは登山道があるが、天上沢側にはないのだが、しっかりとした踏み後があった。

ここからいよいよ東鎌尾根が始まる。いきなりの急登をがんばり、次々に出てくる梯子を登

ったり下ったりしていく。槍ヶ岳は近づいたものの、ひときわ高く聳えている。



遠い槍ヶ岳を目指す

ヒュッテ大槍が近づく頃、ヘリコプターが飛んできて、北鎌尾根の上空でホバリングを始めた。見ていると、人を引き上げて、飛び去って行った。北鎌尾根でそれを見ている人たちも見えた。この日、北鎌尾根では、一人が滑落してケガをし、2人が高山病の症状で動けなくなり、救助を要請したらしい。北鎌尾根もかなりの混雑だったようだ。



ようやく槍ヶ岳が目の前に

それでもようやくヒュッテ大槍に到着する。水などを調達していたが、槍ヶ岳から来た女性が、「槍の穂先は3時間待ちだったので、あきらめて来ました」と教えてくれた。登山者が多いと思っていたが、槍ヶ岳がそんな状態になっていたのを初めて知った。

岩場の連続の東鎌尾根を登り、ようやく槍の肩に到着する。登頂を目指す人の列は、小屋のすぐ近くまで伸びていた。槍ヶ岳山荘でテント泊の手続きをしようとしたら、すでにテント場はいっぱいで張る場所がないという。素泊まり

で泊まるか、下の殺生ヒュッテのテント場に行かないといけないうことなので、みんなに相談して下に下ることにする。槍ヶ岳山頂はもう良いという意見があったが、Sさんが張り切っているの、明日の早朝に目指すことにする。



殺生ヒュッテのテント場にて

☆9月17日

3時過ぎに起きてみると、槍ヶ岳は見えるが、風が強く、時折ガスに巻かれるような天気だ。気持ちが萎えた人もいたが、Sさんは張り切っているの、4時にテントを後に、水とわずかの食料を持って出発する。

槍ヶ岳山荘に着くと、完全に霧に包まれ、まだ暗いこともあって、何も見えない状態だった。ヘッドランプで登れないことはないが、もう少し様子を見ることにする。5時少し前に山頂を目指して出発するが、少し登ったところで、渋滞となり、私たちの前の人が風が来ないところにはあと2人しかいることができないから、しばらく待ってから登ってきた方が良いという。山頂に登った人たちは、御来光が見られるまで下りてこないの、それを待っていたのでは、帰りが遅くなってしまふ。みんな納得し、あきらめて下山することにする。

テントを撤収し、槍沢の登山道を下っていくと、雲の下に出た。展望も広がり、さらに下ると、雲の下に槍沢のモレーンなどがよく見える。アザミの仲間やミヤマシシウドがたくさん咲く付近を過ぎると、大曲に到着する。さらに行くと、ババ平のテント場となる。槍沢ロッジで休憩し、一ノ俣、横尾と通過して、徳沢園で昼

食タイムとする。

予定より少し早く上高地に到着し、小梨平のキャンプ場にある風呂に入って汗を流した。

体のあちこちが痛く、ボロボロになるくらい疲れたが、2日目に槍ヶ岳の展望を窓に尾根歩きを楽しめたことに満足し、上高地から帰るジャンボタクシーに4人で乗って、深い眠りに落ちたまま松本に向かった。 記：網干

《参加者の感想》

槍ヶ岳へいく、今回は表銀座からはじまる。私はそういう長い縦走が好きだが今回はちょっと勝手が違っていったような気がしました。

中房温泉口から合戦尾根、燕山荘まではなんてことなかったのだが、そこからが長かった。稜線歩きでもアップダウンの格が違い、息も切れ切れ、亀のような歩みでなんとか大天井についたときはやっとの思いでした。

稜線上にあるテント場の外にいと寒かったけど、4人で入るテントはあたたかく、山シェフ佐藤さんの作る料理に感激しながら山談義に花がさいた。

そこで明日の行程を聞いて、時間が長いのが気になったが、明日には明日の風がふくだろう、いまさら戻ることできないし、リーダーについていけばいいんだ、その安心感だけがたより。

翌朝3時30分、空は星が間近に見えて綺麗。天の川もうっすらわかりました。これこそ2000m級にいる醍醐味です。



大天井から槍ヶ岳へ東鎌尾根をいく道は、そ

れはそれは厳しく、軽みでいく若者がうらやましかった。この荷物がなかったら、もっと早く歩けるんだろう。そんなことを思いながらも亀のごとく前へすすむ。

晴天が背中を押してくれて、稜線上からは富士山から八ヶ岳、南アルプス、後立山連峰、穂高連峰、その下には雲海。晴天に感謝しながら歩く。槍ヶ岳がどんどん近くなる。

こんなところにきて、歩いている自分が信じられないくらいの景色。今もその情景は脳裏に焼き付いたまま。

途中途中現れるはしごはものすごく、ほとんど垂直で長い。こわいとは思ったが、とにかく三点支持だけは守って一步一步すすむ。

人の手先、足のありがたみを感じながら。とにかく長い縦走路を歩いて、今日もやっとこさ槍ヶ岳山荘について一安心。

しかし3時間待ちの渋滞、あげくにテント場もない。ガーン、がっかり。そんなこともあるんだ～初めての経験。こんなときもリーダーの判断は早い。すばやくはるか下に見えるテント場へ。そこでも佐藤シェフの料理がでてきて、感謝感激。こういう人とお仲間になれてよかった～そう思いながらどんどんいただく。

3日目は強風の槍ヶ岳を背にひたすら下る。疲れた足に重力がかかり、上高地についた時は自分の足が自分の足でないような感覚だった。

それにしてもよく歩いたな～と自分で自分をほめたいくらい。

槍ヶ岳、それは間近でみると天につらぬく剣の穂先のような。威厳をもって堂々と立っていて、かっこいい。

山頂にいけなかったことは確かに残念だが、わたしはそこにたどりつくまでのプロセスが好きなので大満足です。あんな晴天にめぐまれ、なによりもちゃんと無事に無傷で帰ってこれたこと、それが一番よかった。

そして今回一緒に苦しみ、感動しあえた仲間

に心から感謝してます。あんな岩稜帯ですから、ひとりでも怪我をしたらそこで終了。

最後の最後まで一緒にあるけたことはリーダーはじめ仲間がいたからこそ。よく笑った3日間。これも過ぎ去れば思い出になってしまうんだろうけど。そこで得た信頼感はずっとずっとつながっていくんだと思います。

今回の経験はまた自分を賢くしてくれたように思います。辛くて苦しんだ分、わたしはまたさらに強くなっている、そう信じてます。

槍ヶ岳、同じ場所が変わりなく、そこにいるだろうから、またいつかきっと。

重い重いザックを担ぎながらもつらい顔ひとつださないで笑顔でリードしてくれたリーダー。たくさんの食材を運んで、山では食べられないような料理でもてなくしてくれたSシェフ。うしろから、前から、大丈夫、頑張れ、いける、と3日間ずっと心の支えになってくれたYさん。

みなさん、ありがとうございました。そして怒涛の3日間、お疲れ様でした。

記：K.Yさん

自分の体力のすべてを使い果たしたような山行でしたが、槍ヶ岳がだんだん近づいてくるすばらしい表銀座の尾根歩きといつ行っても美しい景観を楽しませてくれる上高地の林道歩きを堪能させていただきました。

今回、地図を見ながら視覚障害者の方と一緒にいくにはどういうルートや日程がよいのかいろいろな山でシミュレーションし議論してみました。

どこでも時間と人出をかければ行けないこ

とはないけれどもやはりより多くの人に参加しやすい、そして長くても2泊程度の工程を考えると以下のようないろいろなポイントを考慮する必要があることなどを皆で確認し意見交換しました。

- ・沢沿いのルートは危険度が高いので避けた方がよい
- ・危険マークがあるルートは避けた方がよい
- ・雪のある方が歩きやすいルートもある
- ・岩場はどうしてもネックになるのでサポートに時間がかかる 等々・・・

毎年、たくさんの山行をAさんに計画していただいています。本当にいろいろなことを考えての計画であることを実感いたしました。現在、来年の計画を作成する時期ですので是非会員の皆様の山行案や様々なアイデアをたくさんお寄せ頂ければと思います。

記：M.Yさん

コースタイム

9/15 中房温泉(6:35) … 合戦小屋(10:05-10:35) … 燕山(11:55-12:10) … 大下りの頭(13:00-13:10) … 切通岩(15:00) … 大天荘(15:30)

9/16 大天荘(4:40) … 大天井ヒュッテ(5:10-5:35) … ビックリ平(6:15-6:35) … ヒュッテ西岳(8:20-8:40) … 水俣乗越(9:35-9:50) … ヒュッテ大槍(12:00-12:20) … 槍ヶ岳山荘(13:20-13:30) … 殺生ヒュッテ(13:50)

9/17 殺生ヒュッテ(4:00) … 槍ヶ岳山荘(4:35-5:20) … 殺生ヒュッテ(5:50-6:30) … 槍沢ロッジ(8:55-9:15) … 横尾(10:35-10:55) … 小梨平(14:00)

★小野子三山(9月22日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

会員外(健常者1名)

今年度は新幹線で行く山が多いが、今回も新幹線を使っただけの山旅となった。

吾妻線の金島駅で下車し、タクシーで小野子山の登山口まで行く。ここからしばらく急坂の林道を登る。林道はさらに急坂となり、登山道へと続いていた。登山道に入ると、さらに急登となり、ぐんぐん高度を稼ぐ。



しばらく登っていくと、トリカブトやシロヨメナなどの群生地となる。サラシナショウマも咲いていた。尾根に飛び出したところで小休止。そこから少し行ったところに、天然記念物のゴヨウツツジへの道を分ける。PさんとYさんが見に行く。

すぐに合流して、一見の価値があるという。ただ、往復する時間が惜しいこともあり、そのまま進むと、すぐ下にゴヨウツツジが見えるようになった。いつか花の咲く時期に、また訪れてみたいものだ。



フシグロセンノウやアザミの仲間が咲く登山道を登っていくと、小野子山の山頂に飛び出した。樹林に被われた山頂だが、南側や北側が切れていて、展望が得られる。しかし、今日は雲に被われていてほとんど見る事ができな

かった。それでも、南側の雲が切れて、時折、麓が見える。



小野子山からは、急降下していく。下りきった高山村へ下山する道との分岐までは、昭文社の地図で10分となっているが、とても無理なようだ。私たちは30分ほどかかった。

分岐からは、今度は急登となる。ふり返ると木々の間から登ってきた小野子山が見える。中ノ岳到着が11時45分なので、昼食時だが、十二ヶ岳の方が展望がよいので、少し休憩をすべくに出発する。

この下りも少し下ってから、また急斜面となる。小野上温泉駅への分岐点を過ぎ、少し行くと、男坂と女坂の分岐となる。当初はサポート体制に余裕がなかったので、女坂にしようと考えていたが、少し余裕が出たので、メンバーの状況や意見を聞き、男坂に挑戦することにする。

さすがに男坂は、今日一番の急斜面となる。ロープが張られ、上部は岩場となる。しかし、先頭に行った人たちはぐんぐん登って見えなくなった。後も、順調に登って、無事に十二ヶ岳の山頂に到着する。この山頂は、今回、最も展望の良いところ。日差しが出てきて、遮るものもなく、ちょっと暑いくらいだったが、待望の昼食タイムとする。我々の他に、2パーティーほどが休憩していた。

十二ヶ岳は非常に展望のよい山で、視界がよいと槍ヶ岳まで見えるらしい。せめて谷川連峰を見たいと思ったが、今日は遠くの展望は得られなかった。それでも、登ってきた小野子山と

中ノ岳、それにPさん思い出の子持山が見えた。



十二ヶ岳山頂にて

山頂で後ずさりをしたKさんが転んで落ちかけてヒヤリとしたが、事なきを得てみんなで写真を撮る。十二ヶ岳からの下りもやはり急降

★多峰主山(9月29日)

参加者 会員(障害者5名、健常者17名)

会員外(健常者5名)

2つの台風通過が心配されましたがちょうど台風の合間で晴れとなり日差しも強い一日となりました。



天覧山山頂にて

飯能駅で自己紹介した後、商店街を通過して天覧山の入り口まで歩きます。天覧山入口からは子供達が元気一杯に坂道を上り、ほどなく十

下となる。今回は、登りも下りも急登、急降下の連続で、なかなか厳しいが変化があって、おもしろい山だった。

予約していたタクシーの時間に30分ほど遅れたが、待っていてくれたタクシーに乗り込んで、小野上温泉に向かう。温泉で汗を流し、さっぱりして帰宅の途についた。 記：網干

コースタイム

小野子山登山口(8:35)…小野子山(10:10-10:30)…中ノ岳(11:45-11:55)…十二ヶ岳(12:40-13:10)…十二ヶ岳登山口P(14:25)

六羅漢像が現れました。丸くてかわいらしい頭を載せた像などを見ながら少々の岩を登るとすぐに展望台に到着しました。たくさんの方がいてやや混雑気味でしたが見晴はますますでした。この時期は猛禽類の鷹などが渡る姿をみることができるということで鳥の写真を狙っている方々もいました。

記念写真を撮った後、多峰主山に向かいます。常磐御前が美しい景観に何度も振り返ったという見返り坂を上ります。子供達は学校の課題で秋らしいものを拾いながら進みます。



多峰主山山頂でも煮を食べる

山頂で芋煮を作りみんなで食べました。差し入れて頂いた具材も使い切り一人2杯くらいの量をつくることができました。余った分はNさんの計らいにより近くにいた他グループの

方にも分けて最終的には完食することができました。皆様、ご協力ありがとうございました。冬はうどんやお汁粉などまたいろいろやりましようという話もできました。

山頂からの下山が本日一番の難所であったと思いますがみなさん無事に通過し巾着田に向かいます。予定の登山口よりやや早めに降りたのでバス通りまで少しコンクリート歩きが増えましたが高麗駅では巾着田の曼珠沙華が見ごろであるためたくさんの人でにぎわっていました。巾着田の奥では入場料が200円かかるのでここで解散としました。その後は一面の曼珠沙華とコスモスを堪能しました。子供達は川原で水遊びをして過ごし、15時前後の電車でそれぞれ帰宅の途につきました。

記：餘永(光)



巾着田のコスモス畑にて

《参加者の感想》

暑い夏を越えて久しぶり参加の山行で、かなりご無沙汰の多くの方々とも会えました。頂上で食べたきのこ・野菜たっぷりの豚汁の旨かったこと。準備してくれた方々に大感謝です。また初めて見る巾着田の花園は想像以上に見事でした。

おかげで素晴らしい一日になりました。ありがとうございました。記：S. Mさん

今日は孫たちを連れて多峰主山、天覧山へ。天気はすばらしい青空で、子供達は朝から元気よくA君に会えるのを楽しみにしていました。

池袋駅で再会した時のあの発狂ぶり？は見ていて微笑ましかったです。子供は子供同士でちゃんと友好関係をつくっているんですね。

今回の山歩きはあの身軽な子供たちには軽かったようでほとんど走ってました。

リーダーのYさんは心配してくれてやはり走ってくれて、それを叱ることなく大きな気持ちで扱っていただき、有り難く思いました。山頂での芋煮会は手慣れた奥様たちが手早くやってくれて、みんなのお腹がいっぱいいっぱいになり(わたしも)みなさんのおかげで美味しくいただきました。仲間っていいな～わたしは芋煮をいただきながら感動してました。

巾着田にいきましたが、その近くに流れる川で遊びたいという子供達の要望に応じて川遊びに。Y、Kはさっさと裸になり遊び始めましたがAくんはなかなか洋服を脱がないでいましたが少し時間をおくと裸になっていました。ママは喜んで見守っていました。

駅まで帰る途中、3人は歌をうたいながら帰りました。知ってる歌を歌いつくすと校歌が出てきて、なぜか君がよまで歌いだして。周りの人にウケたみたいで、子供達はますます声が大きくなり歌い続けてました。

槍ヶ岳のあとのオフタイム。癒しの山行となり、こんなハイキングもいいな～と思いました。

Aくんと別れは「また会おうね」二人がまた大きく見えました。

子供達が山を駆け巡るのを離れた場所で見守ってくれたYGさん。たくさんのお菓子を用意していただいたNさんやおかさあん方。ありがとうございました。またどこかで出沒いたします。そのときはまたひとまわり大きくなると思います。記：S. Kさん

コースタイム

飯能駅(9:20)…天覧山(10:00)…多峰主山(11:00-12:30)…高麗駅(13:00)…巾着田(13:30-14:30)

★鳥海山(10月6日～7日)

参加者 会員(障害者4名、健常者7名)
会員外(健常者4名)

☆10月6日

夜行バスで酒田に到着する。コンビニで食料を買い込み、羽越本線で吹浦に行く。車窓から、山頂を雲に隠した鳥海山が見える。どんよりと曇って、天気はあまりよくない。

吹浦で、温泉に入ろうと、あぼん西浜まで歩いて行く。「あぼん」は、母親が幼子と一緒に風呂に入ることを意味するらしい。家族や隣人への温かい人間愛がこめられ、温泉で裸の付き合いを通じて、人間関係がさらに深まるようにと付けられた言葉らしい。

温泉に入ったあとは、また吹浦駅に歩いて戻る。近道をしようと、線路を歩いて駅のホームへ。吹浦駅は無人駅なので、許してもらおう。



由利高原鉄道の内にて

象潟で、由利高原鉄道に乗り換える。ホームに着くと、宇宙戦艦やまとの絵が書かれた列車と、秋田おばこのお姉さんが待っていて歓迎してくれる。2両目の車両は、テーブル付きの車両だったが、私たちだけしか乗らない貸切状態の車両だった。窓側には、子どもたちの絵が展示され、駅にはいろんなかがしが展示されていた。7日の「おばこ特産品まつり」のイベント

にあわせた企画らしい。

矢島駅に到着すると、鳥海荘の方がバスで迎えに来てくださっていた。バスに乗り込むと、今度は、駅の方が見送ってくださる。人情味のあるみなさまでした。

鳥海荘に到着すると、玄関から明日登る鳥海山がよく見えている。明日は、今日よりも良い天気であることをただ願うばかりだ。チェックインできる時間までまだあるので、ロビーでくつろいだり、近くを散策したりして、思い思いに時を過ごす。

おいしい夕飯をいただき休んでいると、石巻から来たGさん親子が、20時に到着した。思ったよりもかなり早く、これならある程度、ゆっくり休んでもらえそうで一安心だった。

☆10月7日

鳥海荘の登山パックは、4時に朝食をいただけるのでありがたい。今回は、鳥海荘のひろ社長が同行してくださると言うことだったが、親戚に不幸があり、山の同行はできなくなった。しかし、祓川までバスの運転をしてくださるので、とてもありがたい。コースの注意点などもお聞きし、たいへん参考になった。

駐車場の出発は5時30分。もうヘッドランプもいらぬ時間となり、鳥海山の山頂もよく見えていた。



紅葉した登山道を登る

登山口から少し行くと祓川ヒュッテがある。さらに行くと、竜ヶ原湿原に出会う。鳥海山で

は、これから何度も湿原に出会うことになる。

あまりきれいとはいえないが、それでも紅葉した登山道を歩くのは気持ちよい。賽の河原で休憩し、さらに登ってふり返ると、紅葉した山腹の向こうに祓川ヒュッテが見えていた。

小さな尾根の上に出ると、そこは七ツ釜避難小屋の上部だった。七ツ釜方面の紅葉は、今回一番きれいだった。どんよりした曇り空だったが、それでも遠くに山が見えていた。もしかしたら栗駒山かも知れないと思うが、周囲の山が見えなかったので、何とも言えない。



七ツ釜避難小屋付近の紅葉

さらに登ってふり返ると、象潟方面の日本海の海岸線が見えてきた。しかし、山頂方面は雲に隠れてしまった。康新道への分岐を過ぎ、さらに登ると、大きな岩がゴロゴロする沢状のところに入って行く。ゴーロ帯の右側を歩き、さらにゴーロ帯を横切って右岸側へと行く。ここから氷の薬師までが、矢島口コースで最も厳しいところだった。この厳しいところを初参加のCさんにFさんをサポートしていただいたが、しっかりとサポートされていて、ほとんど不安を感じる事がなかった。

氷の薬師からは、石畳となった歩きやすい道となる。ただ、Rちゃんが「疲れた」と言い始めた。早朝からもう4時間以上歩いているので、疲れるのも無理はない。ゆっくりペースで登っていこう。

舍利坂にかかる頃から、空が明るくなり、薄日が差す時も出てきた。霧が晴れることを期待したが、なかなか晴れてくれず、七高山でも残

念ながら晴れなかった。七高山には、東日本大震災の被災地の復興などを願って、今年、ひろ社長はじめ多くの方が引き上げて設置して下さった石碑がしっかりと立っていた。



七高山山頂にて

七高山で昼食を取り、外輪山から急な岩場を下って、大物忌神社に向かう。風がかなり強く、寒さに震えながら下ることになった。

神社の手前に来た時、霧が晴れて七高山がしっかりと見えるようになった。新山も見えてきた。新山は時間的に無理かなと思っていたが、青空が見えるようになったので、これでは行かないわけにはいかない。神社の手前にサポートする人以外は、ザックを置き、希望者で新山を目指す。

巨岩が積み重なってできた新山は、視覚障害者の人にとって最も歩きにくいところだ。しかし、みんなしっかりとサポートして登ることができた。下りも慎重に下ったが、登りよりもスムーズに下れたようだ。



新山山頂にて

大物忌神社から七五三掛を目指して下る。ふり返ると、新山や外輪山が、青空をバックにく

っきりと見えている。すっかり良い天気になった。時間がかかり遅れているので心配だったが、七五三掛へのトラバースも無事に通過し、七五三掛に出ると、光り輝く日本海が見えた。また、北側の霧には、ブロッケンがよく見えた。なかなか見られることが少ないのに、Gさんは3回目の登山で見ることができ、とても幸運だったのではないだろうか。ただ、Rちゃんは、疲れてそれどころではなかったようだ。



ブロッケン現象

御田ヶ原分岐を過ぎ、扇子森に登る。ここを過ぎると、鳥海湖が見える。手前の草紅葉と、青空を写した青い湖面がすばらしかった。御浜小屋で、トイレを借り、時間も遅いので、下山を急ぐ。



鳥海山を背に(七五三掛にて)

先程の青空はすっかり消えて、深い霧にまかれ風も強く、とても寒くなってきた。疲れ切っていたRちゃんには、お母さんとYさんが一緒に歩いてくれている。他のスポーツなら、疲れたところで止められるが、山は山頂を過ぎたら、仮にエスケープルートがあったとしても自分の足で最後まで歩かないと降り着けないとこ

ろが、他のスポーツにない厳しいところだ。疲れてフラフラになりながらも、最後まで、歩き通したRちゃんは、本当にすばらしい。Fさんをはじめ、みんなが祝福の気持ちを持っていた。

私も七五三掛付近から右膝が痛くなり、軽い関節炎を起こしているなど感じ、かばいながら歩いているうちに左膝も痛くなり始めたが、その頃には鉾立に着いていた。メンバーに不安を与えるようではリーダーは失格なので、どんなときでも笑顔でいるのはリーダーとして当然のこと。しかし、体のあちこちが痛くなるようになり、年齢による衰えを実感するようになってきた。



鳥海湖と草紅葉

鉾立に着く時間がほぼ見えてきたところで、タクシー会社に電話を入れ、迎えに来てもらう。日が沈み、わずかに残照のある西の空が見える。そんな鉾立に着くと、Rちゃんのお父さんが土産を持って駆けつけてきてくれた。

12時間近くの行動時間をみんながんばって歩き通しました。みなさんのご協力にただただ感謝です。Gさん親子と別れ、タクシーに乗り込んで、夜の帳が下りた鳥海ブルーラインを通過、吹浦に向かった。みんな力を出し切った充実感を胸に。 記：網干

《参加者の感想》

鳥海山、その山は憧れの山のひとつでした。その山にいけるチャンス到来。

日本海沿いにドーンと立ちのぼる長い峰々。電車の中から見ながらあのとっぺんにい

けるんだらうか。どの山へいっても不安はつきものであるがその不安を和らげてくれるのが一緒に歩く仲間たちの存在。みんな個人差はあっても同じように疲れているのに笑って和ませてくれる。リーダーは今日も終始にこやか。リーダーのあの笑い顔がわたしのアミノバイタル。たぶん前を向いたときは顔は変わってるのかもしれない。

鳥海山は変化に富んでいて、癒しあり、スリルあり、今日も他愛ない話で笑いが絶えない。七高山(旧鳥海山)到着。ここが山頂かと思ったら、それが違って今日の核心部、新山へ。これがすごかった。岩と岩をつないで手と足を駆使して山頂到着。やったね、とFさんと握手。登ったら下りなきゃならない。Fさんがいったことは、登れた山は下りられんだって。当たり前前の言葉かもしれないけどその言葉が頭に残って離れない。登り終えて新山を見上げたらそれはそれはすごい岩の塊だった。

鳥海山は遠くからみるとなだらかに見えるが近くにいってみると荒々しい。下山中、ブロックと遭遇。それも二重のブロック。観音様になった気分(合掌)。日本海側にまわれば雲の合間から日本海があらわれてくれた。わたしはこれが見たかった。だから大感激。青く澄んだブルーの鳥海湖も綺麗でその水に触ってみたかったくらい。そんな体力は全然なかったが・・・

★棒ノ折山(10月14日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

今回は、サポートできる人の参加が少なく、視覚障害者の人、一人の参加を断らざるを得なく残念だった。参加人数も5人と寂しいが、今回は沢コースで厳しいところもあるため、大人数になったら、逆に心配が増えるため、その点では、少し安心だった。



新山への登りは大岩を登る

下山は長く感じたがやはりみんなが力をくれる。あ～限界と思ったところでゴール。いつも同じことを感じる。体はうまくできてる。体はちゃんとコントロールしてくれてる。無事に終えるまで見守ってくださったリーダーさん、お疲れ様でした。そして参加者のみなさん、この日一日のひとこま、ひとこまの一瞬一時一緒に過ごさせていただいたことに感謝します。ありがとうございました。 記：S.Kさん

コースタイム

10/7 碓氷川駐車場(5:30)…七ツ釜避難小屋
(7:15-7:25)…氷の薬師(8:55-9:00)
…七高山(10:15-10:50)…新山
(11:55-12:05)…大物忌神社
(12:35-12:45)…七五三掛
(14:25-14:35)…御浜小屋
(15:35-15:45)…鉾立(17:20)

さわらびの湯バス停近くにある売店で、ASさんがおいしいまんじゅうを買ってくださった。とてもおいしく元気いっぱい歩き始める。

少し歩くと石積のダムが現れる。名栗湖を作っている有間ダムだ。遠くに有間山方面の山々も見えている。しばらく車道を歩き、沢にかかる白谷橋を過ぎたところから登山道が始まる。

しばらくは、沢に沿った山腹をトラバース気味に登る登山道に行く。左側が切れた岩場が何

度か現れ、慎重に登る。しばらく行くと藤懸の滝が現れる。この滝は、中間に釜を持つ2段の滝だった。



ここから沢はゴルジュとなる。兩岸を岩壁で挟まれたゴルジュを登っていくと、天狗の滝が現れ、この滝は左側を登る。

さらにゴルジュを行くと、行く手に鎖場が現れた。ここは階段状になっているが、登り切ると、左下に白孔雀の滝が見えた。ここを越えると、滝も沢もほぼ終わりとなる。

林道を横切り、少し登って左にトラバースしていくと、岩茸石に飛び出した。せっかくなので、登って遊ぶ。KさんとYさんも登った。女性二人のグループが岩を見ていたので、登り方を教えてあげると、一人の女性が登っていった。最近、若い人たちの登山が盛んだが、今回も多くの若い人たちに出会った。順番待ちになると困るが、自然の良さを多くの人たちに味わってもらえるのは、とても良いことだと思う。



これまでと違い広くなった登山道を登り、権次入峠を通過して稜線を歩く。最後の登りをが

んばると、棒ノ折山に到着した。山頂からは、大持山、武甲山、蕨山、武川岳、伊豆ヶ岳などがよく見えた。

昼食後、写真を撮っていると、若い女性がシャッターを押しましょうか？と声をかけてくれた。とてもバランス良く写っていて、すばらしい。ありがとうございました。



50分ほど休んだ後は、来た道を下山にかかる。岩茸石からは、滝の平尾根を下る。少し行くと、樹林が切り払われた視界の良いところに出る。何か音がすると思ったら、リモコンのグライダーを飛ばしている人たちがいた。エンジンなどは積んでいなくて、主翼の後の羽根や尾翼の角度をコントロールして、上昇気流などを掴まえて飛ばせるらしい。初めて見たグライダーに感心していると、岩茸石を登った二人組の女性たちも下山していった。

その後は、林道を2回ほど横切り、木の根の多い山道をハイペースで下っていき、予定よりもかなり早くさわらびの湯に着いた。お風呂に入ろうと思っていたが、団体が入っているということで、あきらめて帰ることにした。

とても涼しくさわやかな日に、少人数で楽しんだ棒ノ折山でした。 記：網干

《参加者の感想》

上りは、沢あり、岩登りもある、変化にとんだ、楽しいコースで山頂でも、少し霞んでいましたが、秩父や、奥多摩の、山々が見えて最高でした。

このコースは、若い女性や、夫婦も多く、人気がようで途中出会った女性パーティーは、Aリーダーの教えで4mほどの岩の頂上に立つ経験をして彼女たちもコース以外の楽しみを得たと思います。また、このコースで、行きたいと思いました。 記：M.Kさん

コースタイム

さわらびの湯 (9:00) … 藤懸の滝 (9:55-10:05) … 岩茸石 (10:55-11:10) … 権次入峠 (11:35) … 棒ノ折山 (11:50-12:40) … 岩茸石 (13:15) … さわらびの湯 (14:55)

★東沢釜の沢 (リーダー養成コース) (10月20日～21日)

参加者 会員(健常者4名)

☆10月20日

塩山駅に着くと、すでに多くの人がバス停に並んでいた。西沢渓谷行きのバスは増便を出すとのことで、安心する。

西沢渓谷入口でバスを降りると、すぐに出発する。今日は、できるだけ両門の滝近くまで行きたいので、少しでも時間を節約する。

空は曇り空だが、時折、日も差す天気だ。西沢渓谷に向かう吊り橋を渡って、すぐに東沢に下りる。沢を渡って対岸に行くところで、私以外の3人は溪流シューズに履き替えていた。私はその間に、下見のために少し先まで行ってみる。ところが、これが間違いで、踏み後をたどっていったら、鶏冠山への沢コースに入ってしまった。すぐに沢を下りて、みんなと合流する。

しばらくは古い登山道を進む。しかし、この登山道は、ところどころ、フィックスロープにぶら下がって岩場を下りるようなところがあり、気を抜けない。



紅葉が美しい西のナメ沢出合

予定より少し遅れて山の神に到着する。ここ

からは、河原歩きとなる。紅葉もこの付近に来ると美しくなってくる。沢の流れは、エメラルドグリーンですばらしい。

乙女の沢、東のナメ沢、西のナメ沢の3つの大きなナメ滝を見送り、15時に釜の沢出合に到着する。予定より少し遅れているが、まずまずのペースだ。



紅葉の美しい東沢を歩く

そして、まず最初の難関、魚留滝に着く。昔あったちょうど良い流木はなくなっていたが、Nさんが少し長い流木を持ってきてくれた。私はザックを降ろして、Nさんに流木を押さえてもらって、流木を足がかりに上のスタンスに立ち、立木のあるところまで登る。そこでザイルを使って、後続を確保する。みんなザックが重くて、苦労しながらも登ってきた。私のザックは、上からロープで引き上げるが、重くてNさんにも手伝ってもらって、やっと上げることができた。

魚留滝を過ぎると、この沢で最も美しい千畳のナメが待っている。女性陣の歓声が上がる。千畳のナメの最後は、4段の滝となるが、ここは左側から高巻く。ただ、ここも足場が崩れた

のか、以前より少しむずかしくなっていた。



流れが最も美しい千畳のナメに行く

次の野猿の滝は、右側から高巻く。ここを過ぎるとしばらく河原歩きとなる。16時をまわり、テント場を探しながら歩いていると、ちょうど良い場所が見つかった。テントを張り、河原で焚き火をして、夕食を食べて、20時頃には眠りについた。



夜は焚き火を囲む

☆10月21日

4時起床。空には満天の星が広がる。今日は素晴らしい天気だ。



両門の滝にて

濡れた冷たい靴下と溪流シューズを履いて、出発準備をする。今日は、最初からハーネスを

付ける。

少し登ると、両門の滝が現れた。この滝は、釜の沢の中で最も美しい滝だ。私たちは、右側の東俣を登る。滝のすぐ右を高巻いて登るが、傾斜が非常に強く、木の幹や根をつかんでの登りとなる。途中から左に行き、滝の落ち口に行くようにテープが付いているが、以前はもっと上から行ったと思い、登ってみるが、やはりこれ以上登ると、上がりすぎると思い、赤いテープにしたがって滝の落ち口方向に行く。最後は、すべりやすそうな岩場をトラバース気味に下りなければならないので、ロープを出して懸垂下降気味に下ることにする。落ち口は、釜になっていて、腰まで潜ってしまった。



釜に入って突破する両門の滝落ち口

後続の女性陣は、懸垂下降はせず、ロープに掴まって下りてくる。最後のYさんにロープを回収してもらって、落ち口を後にする。

次は、ヤゲンの滝となる。右から迷い沢が入り込んでいるが、水量が少なく、迷うことはないだろう。ヤゲンの滝の右側を、ここも木登りのようにして登っていく。落ち口に出るところが、やはりもしスリップしたら止まらないため、ロープをフィックスして通過する。

次の6m滝は、左側を高巻き、落ち口に降り立つ。ここを過ぎると、広河原となり、しばらく河原を歩いた後、右側の樹林帯の中をテープを頼りに登ることになる。ここも、以前はずっと河原を歩いたと思うが、樹林帯を歩くことで、時間の節約ができたようだ。

河原に戻ってしばらく歩いていると、9人パ

ーティーが追い越していった。次ぎに出てくるのは、水師沢出合の10m滝だ。まず、左側の落ち葉のたくさんある斜面を登り、沢を横切って右側に行き、滝の右側を登る。ここも、荷物が重く、ロープを出した。

まだナメが続くが、沢の水量もグッと少なくなってくる。木賊沢手前の滝は、右側を高巻くが、ここも急斜面で、落ち口に下りるところがかなり厳しいため、お助け紐を木に固定して、みんなに使ってもらおう。以前は、もっと楽しかったはずだが、足場が崩れたのだろうか？

木賊沢を横切り、本流の急なナメの横を登っていく。ふり返ると、国師ヶ岳や朝日岳が見えてきた。



途中から沢に戻り、後は沢通しに登る。行く手に、水場が見えてくる。空は真っ青で、最高の天気だ。ペースはかなり落ちてきたが、危険なところはなくなり、あとは安心して歩ける。

水場で溪流シューズを脱ぎ、登山靴に履き替えるので、昼食タイムとする。昼食中に濡れた物を少しでも乾かそうと、岩の上に広げる。太陽の日差しがとても暖かく、今まで寒い思いをして沢の中を登ってきたのが、嘘のように、生き返る心地になる。

ここから、しっかりした道を登って甲武信小屋まで行く。小屋の前にザックを置いて、甲武信ヶ岳の山頂を目指す。山頂に立つとすばらしい展望で、国師ヶ岳、金峰山、三宝山などが間近に見え、富士山や甲斐駒、北岳、八ヶ岳なども見えていた。うっすらと槍穂高も見えていた

ようだ。足下に目を落とすと、今登ってきた釜の沢も見下ろすことができる。



反対側に目を移すと、これから登る木賊山と雁坂峠や雲取山方面の主脈縦走路もよく見えている。今日は、午後になっても雲一つないすばらしい天気だ。



小屋に戻り、重いザックを背負って、木賊山に登らなければならない。疲れが溜まっていてつらいところだ。ザレ場に出てふり返ると、甲武信ヶ岳がよく見えていた。

戸渡尾根は、途中からシャクナゲの道となり、段差が大きくなる。筋肉痛の足にはとてもつらい。少しでも段差の少ないところを探して下っていく。ツツジの仲間やカエデの美しい紅葉を見ながらぐんぐん下っていく。

何とか、明るいうちに林道に出ることができた。そして、西沢渓谷入口でタクシーを呼び、20分ほど待つ。ガタガタふるえがくるほど寒く、タクシーが待ち遠しい。タクシーに乗り込むと、そのあたたかさに感激して、文明の利器のありがたさを実感する。

運転手さんから教えてもらった塩山駅前のラーメン屋でラーメンを食べ、あずさで新宿に向かった。車内では、深い眠りに落ちていった。

記：網干



《参加者の感想》

東沢釜の沢では、重い荷物を担いで登り途中でテント泊というこれまでにない体験をさせていただきました。

皆様のおかげで大人になってからこんなに大冒険ができることを本当にうれしく思います。心から感謝いたします。

今回は初めて沢登りを体験した頃に比べ、恐怖心が少なくなっているのを感じました。何度か経験を重ねたことやクライミングの練習をさせていただいたことが大きいのではないかと思います。

最初に沢に登った時は「岩場で練習するといいんだよね」とアドバイスを受け、岩トレの重要性を実感したのを思い出します。又、最後尾でロープを回収する場面が何度かありましたが無事に回収でき「私にもできた！」という達成感がありました。

時には腰まで水に浸かりながらトップをいくリーダーのルートを観察させて頂きながら無事に登りきることができました。

甲武信岳の頂上から登ってきた沢筋を見た時には感無量でした！

濡れて重くなったロープや重い荷物を担ぎながら要所要所で3人を引っ張りあげてくださったリーダー！本当にありがとうございます

ました。しばらく余韻に浸っていることができとても心地よい気分です。 記：M.Yさん

リーダー養成、沢登りに参加して。

今回は初めて沢登りの山行に参加させていただきました。はじめは歩きにくい岩ごろの上をバランスを取りながら歩く。リーダーは忍者のごとく遙か彼方にいる。22キロの荷物をしょっているのに。すごい。ワープ（瞬間移動）してるのではないかと思う。

今日の体重は荷物が追加されて70キロ近い。背中荷物も手伝ってバランスを保つのに苦労する。10月下旬の川の水は冷たかったが濡れてしまうと意外にそうでもなかった。

魚留の滝から釜の沢コースに入るのにたった4～5mをあげるのに苦労してしまった。リーダーがロープをだしてよいしょ、よいしょと上げてくれる。どきどきはらはら、人は些細なことで右往左往するが自然はそんなことも上から目線であたたかい。

つらかった高巻きを終わるとそこにはキラキラひかる滑がまっついてくれて疲れが飛んでしまった。自然の造形美にはいつもながら感動する。何年もかけて、歳月をかけて作り出していく自然は素晴らしい。別天地のよう。

テント場では焚き火で暖をとった。その火の有り難さ、遊びでやるキャンプファイヤーとは違う。このときの焚き火は命を守るためのもの。暖かな火の有り難さを感じる。

釜の沢をいく甲武信岳への登りはとにかく無我夢中。木や木の根っこ、岩、人の歩いた道にはちゃんと手がかり、足がかりがある。それが安心なものかどうかを確認しながらとにかく這いつくばって、這い上がっていく。地に足がつくちゃんとした登山道の槍ヶ岳では経験できないことがたくさんあったように感じます。道なき道をいくというのは大変なことで、それを導くリーダーはすごい人だと思う。途中、リーダーが道を探しにでた。いつまでたっても

帰ってこなくてそれはもう不安で仕方なかった。戻ってきたときは、安心して、まるで巢の中にいる雛鳥の気持ちだった。

水が流れる中を歩くのは滑るんじゃないかという不安だったが、リーダーの流れの早いところは滑らないという言葉をもらい、勇気を出してすすむ。リーダーの的確な判断でなんとか甲武信岳のポンプ場に着いたとき日差しは暖かく、沢靴から登山靴に履き替えるときは至極な幸福感を感じてしまった。リーダーからもらったおしるこ、おいしかった～

つらい経験のあとの幸せはホンの少しでもありがたく感じる。山小屋に重いザックを置いて山頂へ行って昨日から今日歩いてきたルートを確認。よく歩いたな～思わずうるときで、中村さんに抱きついてしまった。今日は天国と地獄を何度も味わったねと中村さんに言われ、また目頭が熱くなってしまった。まさしくそのとおり。いろんなことを凝縮して経験してしまっ

た。リーダー、それは厳しさ、優しさ、そして精神力、余力をプラスした体力を兼ね備えた人に与えられる使命。チームワーク作り、パーティシッ、リーダーの役割の大きさを強く感じました。ちゃんとしたリーダーがいるからどんな不測なことがおきてもちゃんと家族のもとに

★毛無山(10月28日)

参加者 会員(健常者5名)
会員外(健常者3名)

新宿から高速バスで河口湖まで移動。河口湖手前から雨となる。

河口湖駅では電車のイベントがあるようでものすごい混雑となっている。Sさん親子らと河口湖で合流し行先を検討する。風はないが小雨が降り続けると予測されるので近場でコース

帰ることができる。リーダーはそんな重圧にも負けず、平気な顔をしてメンバーを連れて帰る。わたしはいつもリーダーに感謝してばかりで何もできないでいる。恩返しができるよう、余裕の力をつけて、どんな場面でもあのAリーダーのように笑顔で歩ける人になりたい、そう感じながら家路につきました。

後ろを振り向いては遅れてやってくるわたしを見守ってくれたNさん。何度もこれ登れる？と戸惑ったあの場面、この場面、後ろから支えてくれたYさん。今回もわたしは目に見えない大きなものを取得したように感じています。足のあざを見るたび、あの釜の沢の場面場面が浮かんできます。2日間ありがとうございました。そしておつかれさまでした。

記：S.Kさん

コースタイム

10/20 西沢溪谷入口(10:10)…東沢出合(10:45)…山の神(12:55)…釜の沢出合(15:00-15:15)…両門の滝手前1,550m付近(16:25)
10/21 テント場(5:55)…水師沢(9:30)…水場(11:25-12:15)…甲武信小屋(12:30)…甲武信ヶ岳(12:45-12:55)…甲武信小屋(13:05-13:15)…西沢溪谷入口(17:20)

タイムが短い山を探す。参加者の皆様のご了承を得て西湖と河口湖の間にある毛無山(1500m)を目指すことにする。

登山口までタクシー1台とSさんの車で移動。自己紹介をして登山開始。登山道は整備されており歩きやすい。なかなかの斜面もありすぐに体が温まってくる。被服調整をしてさらに進む。

高度があがるにつれ紅葉がちらほら見られるようになる。Sさんは赤い葉をきれいに包んで持ち帰る。Mさんは枝がついた栗の実を見つ

け秋を体感。ひときわ赤くなっている紅葉の樹の下では「京都みたい！」とにぎわう。



紅葉を楽しみながら登る

雨は降ったりやんだりして時折、西湖がちらりと見えたが残念ながら富士山は見えなかった。山頂手前はやや草が生い茂り道も狭くなっているがほどなく山頂に到着した。記念撮影をして立ったまま手早く昼食を済ませる。味噌汁やスープを飲んで体を温める。寒い時には少しでも温かいものを入れると体が中から温まると皆実感する。皆おにぎりなどをさっと食べて早々に下山の準備をする。傾斜の強い斜面などは雨ですべりやすいが子供達は跳ねるように降りてくる。途中1回の立

★高柄山(11月4日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

四方津駅で全員集合し挨拶をしてストレッチを済ませてから出発する。

登山口までは分岐や曲がり道の要所要所に道標があり、地図通りで分かりやすくなっている。桂川を渡り、川合集落を抜け登山道に入る。天気がよく、空気はややひんやりして歩くにはちょうど良い気候である。川合峠に入り、衣類を調整していよいよ本格的にスタートする。

登山道は踏み跡がありわかりやすかった。標

休憩程度で順調に下山終了。14時30分には登山口に戻ることができたので1kmはなれた日帰り温泉に向かう。



毛無山山頂にて

バスの予約を早い便に変更しゆっくり温泉を楽しんでから河口湖まで路線バスで戻り、河口湖駅で吉田うどんを食べ高速バスに乗り換えて帰路についた。 記：餘永(光)

コースタイム

毛無山登山口(9:40)・・・山頂(11:50-12:30)・・・毛無山登山口(14:30)

高600mを過ぎた頃から登山道と並行するように整備中の林道が現れる。コンクリートの林道を2回横切るが2回目に渡る手前で登山道から左側(北側)にコースをずれてしまった。行き止まりのサインであったロープの脇を進んでしまい、少々荒れた道になったので皆で



富士山の頭が見えた

ルートファインディングし、結局少し戻って正規のルートに戻ることができた。新大地峠（大丸）手前まではコンクリートの林道に沿って進む方がよい。

新大地峠（大丸）で12時となったのでここで昼食タイムとする。じっとしていると体がひえてくる。休憩時間は30分で切り上げて高柄山に向かう。アップダウンがあり結構きつい。ようやく到着した山頂でやや長めに休憩をとってから下山する。



下りが急である箇所が多く、何か所かロープが設置してある。幅の狭いトラバースも多く、ロープが頭上に張られている箇所も多くあった。下りきったところから御前山山頂下までの登りがはじまる。この登りがまた急登を含みハードである。



御前山山頂下の分岐では「もう登りたくない」という意見が多く前半組の満場一致で右側の下りルートを選択する。距離的にはやや長いが予定より30分遅れ位で下山することがで

きた。上野原駅に行くまで再び桂川を渡るがこの川幅は四方津駅よりはるかに広い。

ちょうど17時過ぎの電車がなかったのでこれに乗車して帰宅の途についた。

記：余永(光)

《参加者の感想》

高柄山は、HPで書かれていたように、アップダウンのある山で、歩行距離のある山でした。

山頂は、上野原の街が一望出来るすばらしいながめでした。



今回のルートは、新しい林道が出来ていたり、立ち入り禁止地帯のロープ整備の不備もあって、リーダーのMYさんは、地図と違ったコースで、大変だったと思います。

山頂でみんなが、登頂の喜びにひたっているところ、リーダーのMYさんは、一人、帰りのルートを確認していたようで彼女のまじめさが伝わってきました。

途中、道がわかりにくかった場所で立ち止まっても、理事長のAさんは、あえて、リーダーには、声はかけず、全てを任せていることにも、お互いの信頼を感じます。

地図読みに加えて地形を読む必要のある、このような難しいコースのリーダーをしてくれた、MYさん、ありがとうございました。

そして、この経験によって、リーダー技術も、ぐっと上がったことと思います。

参加された皆様、ありがとうございました。

記：M.Kさん

高柄山はいままで聞いたこともなかったが、標高もあまりないし、ハイキング気分で行けるだろうと思ってましたが、リーダーのYさんからなかなか厳しい山と聞き、慌ててHPなどで確認しました。

低山なれど侮れない山とあり、どの方もなかなか厳しいとありました。高柄山は悪路で名高い山とあり、どれだけ悪路なのかいってみよう、気を引き締めていきました。いって見た感想は思ったよりハードだった、です。

登山道は整備されていますが、ほとんどがトラバース気味の登山道。右が切れてたり、左が切れてたり、緊張する場面もたくさんあって、ハイキング気分など消えてしまった。高柄山は予想以上にアップダウンが多く、標高差500メートル以上の疲れを感じました。特に下りはロープ張ってある個所が7割くらいあり、こんなとこ下るんだという場面がたくさんありました。山の仕事の人たちが使う作業道のように感じました。

天気がよかったので周囲の山々がよく見えてまさしく秋の空でした。富士山も頭だけ見え

て、白く光ってました。高い山は紅葉してエンジン色に見えました。冬は着実にくるんだな〜と感じたものです。紅葉はまだまだで、木漏れ日から光る木々の緑をみて「緑が綺麗〜」と思わずいうと、後ろを歩いていた高橋さんがいまの季節に緑がきれいっていうのも変ねといっていました。

御前山のゴルフ場のフェンスが痛々しく、山が不憫に思いました。これではクマも食べ物をもとめて里にでてくるだろうとクマの気持ちがよくわかった気がします。

リーダーのYさん、ありがとうございました。そして参加者の皆様たくさんの手料理と面白い対話、ありがとうございました。またどこかの山で会えますように。 記：S.Kさん

コースタイム

四方津駅(9:30)・・・川合峠(10:20)・・・新大地峠(12:00)・・・高柄山(13:30)・・・矢ノ目(14:30)・・・御前山山頂下(15:30)・・・上野原駅(17:00)

★御林山(11月25日)

参加者 会員(障害者5名、健常者10名)
会員外(健常者2名)

今回は、年に一度の登山道のごみ拾いを行う日だ。山は、浅間尾根の一角にある御林山。山自体は地味だが、木々が葉を落とした浅間尾根からの展望が一つの楽しみだ。

初参加のMさんもいるので、バス停で自己紹介をして出発する。

今回、私は山仲間アルプ設立以来2度目の地図忘れをしてしまった。まあ誰か持ってくるだろうと安心していましたが、ほとんどの人が持ってきていない。KさんとANさん、初参加のMさんだけは地図を持ってきたが、KさんとANさんの地図は古くて、バス停の位置も違って、仲ノ平から登る登山道も書かれていない。Mさんはネットから印刷した地図を持ってきたが、やはり登山口周辺の細かなところが書かれていないので、こちらもちょうと不安だった。

Kさんの地図を借り、前日見た自宅にある地図を脳裏に展開して、あとはKさんの地図

と勘を働かして、行くことにする。結果は、道に迷うこともなく順調に歩くことができた。



AさんをサポートするOさん

リーダーはお馬鹿さんなので、参加するみなさんも必ず地図を持ってきてくださいね。



どっしりした山容の御前山

車道を登り、登山道へと入っていく。三頭山やそれに続く笹尾根がよく見える。紅葉も、まだ何ヶ所か残っている。数馬分岐に到着すると、浅間尾根方面が見える。そして尾根に着くまで見えなかった北側の山が見えてくる。木々の間から大岳山や御前山が見える。御前山はどっしりとした風格を感じる山で、



御林山山頂にて

大岳山は強い個性を持つやんちゃな山のようにだ。

若いOさんはAさんをサポートし、初参加のMさんはFさんをしっかりとサポートしている。時折風の吹き抜ける寒いところもあったが、日だまりは暖かく気持ちがよい。



AさんをサポートするS君

車道を過ぎ、よく分からないまま数馬峠を過ぎ、木々の間から御前山が見えるやや広い尾根上で昼食とする。昼食を取った場所から少し行くと仲ノ平に下る分岐に出る。そこからさらに尾根を歩いていくと、御林山への最後の急登となる。小4のS君は、Aさんをしっかりとサポートしてくれている。3歳の時から参加しているS君は、もう登山歴6年ほどだ。しかも、障害を持つ人たちと当たり前のように接している。S君がどんな大人になるのか楽しみです。

奥多摩周遊道路に出て都民の森に歩くが、最初は歩道がなくて注意しながら歩く。事故があったようで、救急車や消防車、パトカーなどが次々に奥多摩湖方面に向かっていった。

予定では、仲ノ平に下りることにしていましたが、地図がないことや温泉に入りたいという人が少なかったことから、都民の森に下山しましたが、結果的には、バスに座ることができてよい選択だったようです。

記：網干

コースタイム

浅間尾根登山口バス停(10:10)…数馬分岐

(11:05-11:15)…昼食(11:55-12:20)…御 (13:20)…都民の森(13:55)
林山(12:55-13:05)…浅間尾根駐車場

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回立山）

僕がこの立山登山で一番印象に残っていたのは、雪渓で遊んだことと、黒部ダムを見たことです。雪渓は3日目の剣沢小屋付近にあり、その雪渓をAさんが軽々と歩いているのを見て、僕も歩いてみようと思い、スタッフの方にサポートしてもらいながら、歩かせてもらいました。

雪の上は少し滑りやすく、スキー場の雪のようでした。そして、しばらく雪の上を歩き、雪渓に慣れたので1人で日が暮れるギリギリまで歩き遊びました。

印象に残った2つ目の黒部ダムは、来る以前からダムの設計、建設までの事を本や写真で調べて、ダムの事を想像していましたが、いざダムを見ると、想像以上の大きさと迫力でとても感動しました。

僕は、この半年間の山登りで色々な事を経験しました。部活動との両立、小さい子たちの事を考えて一緒に行動することなどたくさん学びました。

来年は部活などが忙しくなるので、アルプに行く機会は減ると思いますが、またアルプのスタッフの人たちと一緒に登れたらいいと思います。

K.I君

今回の立山は、初めての夜行バスで行きました。だけど、あまり眠れませんでした。その次の日は、みくりが池などいろいろな所へ行きました。地ごく谷にも行ってみたかったけど、有毒ガスが出て入れなくて残念でした。その後に、一ノこし荘へ向かいました。登る間には、いろいろな花がたくさんあり、雪が残っていたので、触って遊びました。

2日目、登るところは、岩がたくさんある道で、すぐに足がつかれてしまいました。がんばって登り、雄山へ着くと、その神社へ行きました。石にはいろいろな願いも書いてありました。

そして、剣沢小屋へ着くと、その中はトイレもきれいで、今までの小屋で一番良いところでした。

最後に黒部ダムを見に行きました。写真で見ていたよりも実際に見ると、放水のはく力はすごかったです。

S.Iさん

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（9月9日）

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

会員外(健常者1名)

まだ夏真っ盛りといっても良いくらい暑い日でしたが、逆に日和田山の岩場は比較的空いていました。

空いていたおかげで、最初から男岩の南面を登ることにしました。

岩登りが初めての方もいるので、まずは基本の三点支持を会得してもらって、次は、ロープの結び方を覚えてもらう。もしもの時に使えるブーリン結びと、8の字結び、マスト結びをしっかりとマスターしてもらって(?)から、実際に岩場を登ってみる。



男岩を登るS. Kさん

男岩南面を正面のフェースから登ったり、凹角から登ったりする。最後のかぶり気味の4級+のクラックも、ほぼみんなながらクリア。隣では、小学2年生の女

の子も、このフェースを完登していた。将来、どんなクライマーになるのだろうか？

昼食は、S.Kさんが作ってきてくださったゆで卵(?)とM.Yさんからいただいたグレープフルーツが格別だった。

昼食後は、男岩の西面をトップロープで登る。5級のアンダーリングフェースは、やはり厳しく、私とTさんがワンテンションで登っただけだった。

しかし、左の凹角やフェースなどをみんな登り、何とか2本ずつ登ることができた。最初、岩壁を見ただけで、登らないと言っていたK.Kさんも、しっかりと登っていた。

記：網干

《参加者の感想》

初秋とはいえじわっと汗をかきながら日和田山へ。初めていった日和田山。すでにたくさんのロープがかかっている、どこ

をどう登るのかわたしは好奇心でいっぱい。

岩登りは見ているより実際に岩に取り付くと意外に登れるもんで、これは難しいかとも思っても、下から右だ左だと言われ右?左?どっちだ?頭が混乱しながらもなんとかロープのてっぺんまでいくことができました。

リーダーに上に上がったならまわりの景色もみてくるんだよと言われたのでぐるっと見回すとそこからの景色は登り終えた満足感もプラスされて素晴らしかったです。



男岩を登るK. Kさん

外国の方と目があつたのでハローっていったら笑顔でハローって返事が返ってきました。リーダーにその話をするとちょっと発音が違うって言われ、大笑いしました。

初心者用の岩ということでしたが、登りにくいところもあって、根性無しのわたしは何度かトライするものの、さっさとあきらめ楽な方へ逃げてしまいました。次回は先日できなかったあの難所(わたしには)を挑戦してみたいと思います。



男岩西面を登るSさん

ひと通りのロープワーク学習と確保していただいたの岩登り。一度目ではできなかった垂直降下も二度目はうまくできたような気がしました。確保をしてもらえるから安心して体を預けて岩トレができ、気持ちよくトレーニングできました。

ビレイしていただいたYさん、M.Kさんには感謝します。ありがとうございました。

リーダーの山猿（失礼）ぶりはすごくて、あざやか！の一言。同じ人間とは思えませんでした。

記：S.Kさん

久々の岩登りで足で登るとわかっていても、つつい手に力が入ってしまいます。手がかりのを見つけにくい所の攻略が課題です。今回、ビレイしていて気づいた事は登り下りの個々人のくせが、ザイルを通して伝わって来るのを今回初めて意識して良い経験が出来ました。

高所登山で、ザイルごしに気持ちが通い合うと言うのが少しわかりかけて良い体験でした。

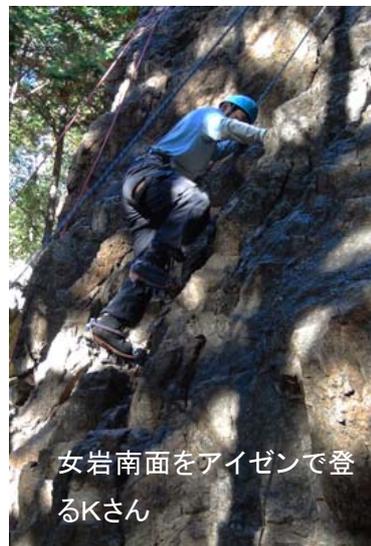
記：M.Kさん

★岩登り技術講習会（日和田山）（11月18日）

参加者 会員(障害者2名、健常者2名)

今回は、登山靴とアイゼンを使っでの岩登り練習を中心に行った。

まずは、ロープの結び方の練習。基本的な8の字結び、マスト結び（クローブ・ヒッチ）、半マストなどをおさらいする。



女岩南面をアイゼンで登るKさん

続いて、登山靴で女岩南面を登る。登山靴でもアイゼンでもそうだが、クライミングシューズのように大きなフリクション（摩擦）は期待できないため、確実につま先で岩

場に立つことが重要。特にアイゼンの時は、一度スタンスに足を置いたら動かさないことが重要。動かすと多くの場合、アイゼンがスタンスから外れてしまいます。

また、クライミングシューズでも同様ですが、上半身を岩場に近づけないことが重要です。上

半身が岩場に近づくほど、スタンスが見えなくなってしまいます。どうしても、岩登りに慣れていないと、高い位置のホールドを探してしまい、そのために体が伸びきり、上半身が岩場に密着してしまいます。この状態では、足場（スタンス）が見えず、次の動作に移れません。



女岩南面をアイゼンで登るAさん

岩場は、腕の力より5倍は大きな力があるといわれる足で登るのが原則です。そのためには、スタンスにしっかりと立ち、脚力で体を持ち上げることが大切です。

登山靴やアイゼンで登ると、ごまかしが利かないため、確実に岩に立つ必要があります。

山仲間アルプで冬の岩登りをすることはありませんが、春山の槍ヶ岳などに登るには、どうしてもアイゼンを付けて岩場を登ることになるため、グレンデでアイゼンを付けて登り下りする練習をしておくといでしょう。

記：網干

《参加者の感想》

アイゼンでの岩登りは、以前は大変苦労したので、不安でしたが登山靴での、登りよりも、接地面が小さくても、前爪が、岩を捉えて足が、基本に忠実に、垂直であれば、体重が乗る事に、自信がつかしました。

アイゼンを信じて体重を預ける勇気、1 cm に体重をかけるロマンですね。なーんてかっこいい事言っても、翌日は、内モモと、ふくらはぎに加え、なぜか胸の筋肉痛でした。更に、肘と、膝を、すりむいていました。

まだまだ、修行が足りないと、反省するところでした。 記：M. Kさん

ハイキング報告

★第31回ふれあいハイキング（藤岡古墳群）（11月11日）

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

諏訪神社を出て、架線のない単線の八高線を横切る。ディーゼル車だけしか走らない、関東では非常に珍しく、貴重な路線ではないだろうか。

雨が心配で、何度も天気予報を見たが、何とか15時くらいまでは雨は降らない予報となり、予定どおり実施した。

長い電車の旅を終え、群馬藤岡駅で下車する。八高線できたS.Nさんと合流して歩き始める。

まずは、富士浅間神社に立ち寄る。ここと次ぎに行った八坂神社の社殿は、古墳の上に建設されているらしい。この付近の紅葉はすでに始まり、民家の庭には菊が固まりとなって咲いている。何という名前の菊だろうか？

八坂神社の後は、一行寺に立ち寄る。ここには、藤岡市指定重要文化財の動堂観世音が建つ。次は増信寺から諏訪神社に行く予定だったが、K、Nさんから光徳寺に有名な和算家の関孝和の墓があるというので、光徳寺経由で、諏訪神社に行くことにする。

光徳寺で関孝和の墓は見つけれなかったが、有名な数学者であることをK、Nさんから教えていただいた。

次ぎに立ち寄った諏訪神社は、前方後円墳の上に社殿が建てられているそう。社殿の横には、五右衛門風呂の釜が雨樋の水を集める桶として飾られていた？ また、七五三を祝う家族が訪れていた。



小林の古墳群は、民家が立ち並ぶ空き地のような感じのところに、いくつももっこりと土が盛られていた。地元の人たちには、見慣れた風景なんだろうが、こういうものが当たり前のように民家の近くにあることが何とも言えず不思議に感じた。

さらに塚原古墳群を見て、先に進む。そろそろ、お腹が空いてきたという声が聞かれ始めた。

本郷埴輪窯跡を見て、次の土師神社でお昼にする。土師神社は、土俵辻があり、日本三辻の一つらしい。

次は、神流川（かんながわ）の畔から土手を歩く。護岸工事をされていない神流川は、草木に被われた河川敷の中を流れる緩やかな川だ。紅葉も美しく、ホッとします。

記：K.Nさん



神流川沿いの道を歩く

牛田工業団地が見えたところで、右に折ればよかったのだが、行けるだろうと判断して、工業団地の左側を神流川沿いに行ったが、最後は行き止まりで、今日は、登山装備をしていないので、草木を分けて強引に進むのは無理なので、あきらめて引き返す。しかし、ここには、カラスウリがたくさんあった。カラスウリの花言葉は、よき便り、誠実、男ざらいだそう。なぜ、男嫌いなのだろうか？ 記：網干



最後のバス停にて

《参加者の感想》

古墳めぐりはいつも楽しみにしております。まず降りた事もない駅からは、探検気分です。

今回も、藤岡市が和算家の関孝和の生誕の地である事、相撲の元祖と言われる野見宿禰（のみのすくね）を祀る土師神社は土俵が祀られていた事。また屋根が変わっている家発見、これは、清温育方法の養蚕の家の建物でした。川沿いには赤いカラスウリ（烏瓜）が沢山、なぜ烏瓜？ いつもの様にあれを見て、これを見て、ワイワイ、ガヤガヤと楽しい古墳めぐりでした。そしてポツンと降る前にバス停につきました。

自称物理屋の私は、Nさんが調べてくれた和算学者の関孝和氏の眠る光徳寺に理事長Aさんの機転で行けて良かったです。

また、神流川を超えたところで、地図の上では、林を突っ切った方が、時間短縮になるとして、何度か試みましたが通り抜けできず、結局道路の通りに、大回りしなければと言う事でバス停に行きましたが、さすが山家さんの、発想だと笑い、楽しかったです。

川沿いは、柿の実が、たくさんみのりコスモス畑もあり、公園の遊具で遊んだり、これも良い思い出になりました。 記：M.Kさん

気持ちの良い秋の1日を、今まで知らなかった古墳や、史跡古い神社お寺など、たくさん見せて頂いて、とても興味深い一日でした。歴史に詳しくない私でも大昔の人々がどんな風に暮らしていたのかなど、いろいろ想像しながら見て回るのはなにかとても懐かしい気がして、楽しかったです。なんとなくロマンチックで本当に楽しい秋の一日でした。

突如轟音と共に空から訪れたモーターパラグライダーには興奮しましたね。テレビでは時々見たことがありますがあまり肉眼では見られませんでした。神流川の河畔はとても美しい所でした。丁度紅葉が盛りになりかけの所で全く人工のものでない全く自然の木々が、のびのびと天に聳えて、梢を伸ばした美しさに、胸の奥から深呼吸しないではいられなくなるような、胸が広がっていくような、そんな感動を受けました。いくらでも歩いていたいような、本当に素敵な秋の一日でした。一人で山を一日歩くのも悪くはないのですが、みんなと歩いていると楽しくて疲れも吹き飛ばしてしまう所がありますね。お天気も仏子の駅に着いた時に本格的に降り出した程度で良かったです。皆様お世話になりました。ありがとう

ございました。

記：S.Nさん

コースタイム

群馬藤岡駅(10:10)…一行寺(10:40)…光徳

寺(11:10)…本郷埴輪窯跡(12:10)…土師神社(12:20-12:50)…日本中央営業所バス停(15:10)

11月17日のミニハイキング(北印旛沼から酒々井)は、雨のため中止しました。

その他事業報告

★第9回やちよ市民活動サポートセンターまつりに参加

11月23日(金)に実施された第9回やちよ市民活動サポートセンターまつり「こんにち



わ'ふれあいまつり」に今年も参加しました。

今年も昨年同様、Y理

事が山仲間アルプを代表して実行委員となり、事前の会議から準備、当日の会場作りや撤収、スタンプラリーの受付など、最初から最後まで取りまとめていただきました。

当日は、あいにくの雨でしたが、多くの方に訪れていただくことができました。ご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。

☆八千代市1%支援制度の支援金確定

今年も申請した八千代市の1%支援制度の支援金が決まりました。申請額 280,000 円に対し、決定額は 32,696 円と少額でしたが、

ご支援いただいたみなさまに、深く感謝申し上げます。

各種連絡事項

☆臨時総会の開催

今年も、残りわずかです。来年度の事業計画を検討する臨時総会を 2013 年 1月12日(土)の午後、八千代市緑が丘公民館で実施します。来年度は、当法人の設立10周年記念の登山も計画していますので、ぜひ出席していただき、みんなが参加し、楽しめる計画を検討し

ましよう。詳細が決まりましたら、案内をお送りします。

また、来年度から変更を予定している会費制度についても、みなさまのご意見をお寄せください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略) また、賛助員にお二人の方がなっていました。

正会員

3名

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会されました。

2名

編集後記

・理事長のつぶやき

今年の7月に立教大学で、数年ぶりに話をさせていただく機会をいただき、もっと話を聞きたいという学生さんもいたのですが、そのような話を会員向けにした方がよいのではないかという話をいただきました。

さまざまな個性を持った人が共に楽しむためには、感謝の気持ちと思いやりの気持ちが欠かせないのですが、それぞれの気持ちは、浅いものから深いものまで、さまざまです。

感謝の気持ちは無償なはずですが、果たして

本当に無償の気持ちでいられるでしょうか？
例えば「ありがとう」と言ったのに、相手から無視されたらどう思うでしょうか？ きっと、「こちらがお礼を言っているのになぜ？」と思うのではないのでしょうか？ 相手に何かを伝えるということは、必ず相手にも何かを求めているように思います。

深い感謝の気持ちや思いやりの気持ちとは何か、さらに生きることの意味や、いろんなことを一緒に考えてみませんか？

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

